

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

ガラスドーム

the glass dome

「ガラスドームはなくなってしまうのですか？」葛西臨海水族園リニューアルの情報が流れてから、このような声を聞くようになりました。大丈夫です、ご安心ください。2028年の水族園リニューアルにともなうて、ガラスドームが解体されるということはありません。水族園は今年開園35周年を迎えますが、1989年の開園以来、多種多様な生き物たちとともに、この特徴的な建築物であるガラスドームも多くの皆さんに親しまれてきました。水族館としての機能は、新たに建設される施設へと移転しますが、今後、ガラスドーム等建築物の適切な保全と新たな利用について、建築家をはじめさまざまな方々のご意見をお聞きしつつ考えていくことになります。（園長 錦織 一臣）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 「水辺の自然」からお引越し 「水辺の自然」の生き物たちをふたたび！
- 南極でくらすヒモムシの展示

なぎさNEWS

- 暑い8月の「西なぎさ」調査
- なぎさで探そう！こんな生き物「ミズクラゲ」

水族園のもう一つの顔

- スペシャルガイドツアーへようこそ
- くるまのすいぞくかんがやってくる

TSLP LATEST



Vol.22 No.5 2024

OCTOBER

通巻

118

「水辺の自然」からお引越し! 「水辺の自然」の生き物たちをふたたび!

新水族園の建設にともない、2024年5月20日から「水辺の自然」エリアが閉鎖となりました。現在は、取り出した淡水生物の一部を、企画展示「『水辺の自然』の生き物」として、「東京の海」エリア入り口に3つの水槽で展示しています。ここでは、自然が豊かだった頃の東京の水辺をイメージした展示をご覧ください。

一番右の水槽では、都内では絶滅したと考えられているゼニタナゴを展示しています。タナゴのなかまは、生きた二枚貝の体内に卵を産む特殊な繁殖生態をもっており、水族園では、保全活動の一環として毎年バックヤードで繁殖させています。今回展示しているのは、水族園で生まれた個体です。水槽では、さまざまな生き物の隠れ場所や産卵場所にもなる、水草がしげる環境も意識しています。ゼニタナゴが水草に隠れている様子も、観察してみてください。

中央の水槽では、ムカシツチガエルとその幼生(オタマジャクシ)、ミナメダカのほか、田んぼや湿地で見られるデンジソウなどの植物を植えています。デンジソウは、かつては田んぼで普通に見られる雑草でしたが、農薬の影響や田んぼの管理方法の変化により、生息地が減少し、ほとんど見るができなくなっていました。このような、水草などの植物にもぜひご注目ください。

左の水槽では、アカハライモリを展示しています。今後アカハライモリに加え、トウキョウサンショウウオやニホンアカガエルなど、複数の両生類を展示していく予定です。ご期待ください。

閉鎖となった「水辺の自然」エリアは、水辺の植物が作りだす環境にも重点を置いた展示となっていました。これからも生き物だけでなく、水辺の景観も楽しんでいただける展示を目指していきたいと思います。

(飼育展示係 古橋 保志)



水槽内の景観も楽しんでほしい!



ゼニタナゴ



アカハライモリ



ムカシツチガエル(幼生)



クロモ

展示している水辺の生き物たち

南極でくらすヒモムシの展示

2024年7月25日から、「南極2」水槽でヒモムシのなかま「パルボルラシア コッलगトウス」を展示しています。水族園では、2016年に一時的に公開して以来、久しぶりの展示となります。今回の展示にあたり飼育記録を調べたところ、もっとも長生きしているものでは、開園直後から、30年以上飼育している長寿個体が数個体いることが分かりました。

ヒモムシというように、細長くヒモ状の体は柔らかく伸縮自在で、長く伸びると1mくらいになることもあります。ちょっと見



名前も長い! パルボルラシア コッलगトウス

たところ、うどんみたいと感じる方もいるかもしれません。彼らは、水槽の中では互いに体を寄せ合い塊になって動かないことが多いのですが、エサのにおいを感じると、

口がある体の先の方を動かしたり体を伸び縮みさせたりして、エサを探しながら移動することがあります。食べ方も特徴的です。まず、体の先端から吻とよばれる細長い器官を外へ伸ばします。そして、エサに触れると吻でからめて、お腹側にスリット状に開いている口の中に取り込んで食べます。吻は、短い時間のうちに体の中にしまわれてしまうため、実際に目にする機会はほとんどありません。

水槽付近の解説パネルでは、近くに置いた大きなアジを口の中に丸のみにしていく様子を、モニターで紹介しています。水槽で見る姿からは、なかなか想像しにくい捕食シーンかもしれません。ヒモムシの少し変わった食べ方を、ぜひモニターでご覧ください。

(飼育展示係 笹沼 伸一)



これが口だ!

なぎさ NEWS



暑い8月の「西なぎさ」調査

2024年8月5日、「西なぎさ」で定例（偶数月に実施）の地曳網調査を行いました。午前中からの強い日差しにより、気温35℃、「西なぎさ」の水温は33.5℃に達し、胴長靴をはくと、水の中に入っても汗が止まりませんでした。

さて、採集された生き物ですが、4月、6月に多かったハゼ科魚類の仔稚魚はほとんど見られず、5～8cmに成長したマハゼ、ヒモハゼ、ギマ、トウゴロウイワシ、コノシロの幼魚が入網しました。この中でギマは、夏の代表選手で「西なぎさ」では幼魚のみが見られます。今回の調査では11個体採れましたが、これは例年と比べ少ない印象です。ギマは、成長にともなって体の形が大きく変わります。幼魚はひし形をしていますが、徐々に体の後半が細くなり、フグ目の魚にしては珍しく尾ビレが二又に分かれ、泳ぎが得意な魚の形になるのです。また、この日、ウロハゼという珍客も1尾でしたが入網しました。しかも20cmを超える大型でした。もともと西日本に多く東京湾には少ない魚ですが、最近は時折目にすることがあります。

（調査係 池田 正人）



ギマの幼魚



ギマの成魚

幼魚は「葛西の海2」水槽、成魚は「東京湾 運河」水槽で展示中



大きな珍客ウロハゼ

なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★☆☆☆

サイズ 直径5～20cm

見つけるコツ

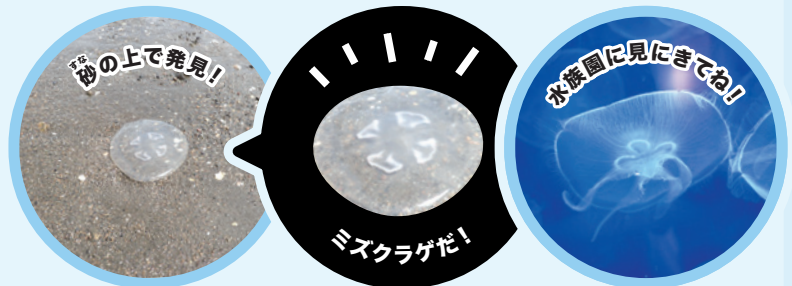
「西なぎさ」で波打ち際を見てみよう。吹き寄せられて波打ち際をふわふわとただよっているミズクラゲと出会えるかも。泳ぐ力が弱いから、風に流されて岸に打ち上げられていることもあるよ。潮が引いている時間に干潟を歩いてみよう。砂の上にゼリーのようなミズクラゲが見つけれられるかも。

ミズクラゲ（ミズクラゲ科）

■ミズクラゲはこんな生き物

上から見てみると、真ん中に丸い模様が4つあるね。これは胃なんだ。体のほとんどが水でできていて、透明なんだよ。他のクラゲと同じようにミズクラゲも刺胞という毒針をもっている。さわると、人によっては痛みを感じることもあるから気をつけてね。

水族園では、水槽の中をただよっている姿を見ることができるよ。観察してみると、体を縮めたり広げたり、いつも動かしているのが分かるはず。人間とは違って心臓がないから、こうやって体を動かすことで、全身に栄養や酸素を送っているんだ。（教育普及係 加藤 ソフィー）



水族園 のもう一つの顔

スペシャルガイドツアーへようこそ

開園35周年を記念し、今年は多くの催しを実施しています。中でも35周年記念スペシャルガイドツアーは、毎月1回違う係のスタッフが話しする特別なガイドツアーです。5月は、設備や植物の管理を行っている施設係が担当し、「施設の裏側」をご案内しました。普段は皆さんの前でお話しする機会がないため、新鮮な気持ちで実施できました。しかし、施設の裏側は、天井や足元の配管に注意する必要があったり、機械音で声が聞こえづらかったりと、楽しんでいただくためにはいくつかの課題がありました。複数回のリハーサルを行い、安心して回れる順路や声の届きやすい場所を模索し、本番に臨みました。当日は検討したルートで、巨大なる過機や循環ポンプなどについて解説しました。他にも普段は入れない外周路で、園内の植物についても紹介しました。ツアー中は、子ども達からも多くの質問をいただきました。やってみての感想は、ひとえに楽しかった、でしょうか。大変なこともありましたが、楽しんでくださるお客様を見て、頑張ってたかったなと思いました。10月以降もこのツアーは続きますのでぜひ参加してみてください。皆さんにお会いできることを心待ちにしております。(施設係 佐藤 一貴)



機械に囲まれた施設の裏側にご招待!

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 7/25 ミナミワトビペンギンの凍結精子を用いた人工授精2例目の成功
- 8/2-18 ガラスドームプロジェクト「海とつながる。アートをめぐる。」実施
- 8/3 ガラスドームプロジェクトシンポジウム開催
- 8/8 トピック水槽でコミナトテンジクダイ属の一種を展示
- 8/11-14 開園3時間延長イベント「Night of Wonder 夜の不思議な水族園」を開催
- 8/16 台風7号の接近により臨時休園
- 8/25 「浮遊生物 6」水槽でイボダイの幼魚を展示
- 8/29 43号上部2階の小水槽でトビハゼの繁殖個体を展示
- 9/2-8 テントデッキ補修工事にともなうペンギン仮設展示休止
- 9/11-25「サンゴ礁の海」水槽の展示改修工事
「自然への影響を減らす取り組み」トピック展示
- 9/19 「浮遊生物 5」水槽でワタゲクラゲを展示

くるまのすいぞくかんがやってくる

移動水族館では、障がいや病気などで水族園に来ることが難しい方々のいる施設に出向き、海の生き物の魅力を伝える活動をしています。早いもので、この事業を開始してから今年で10年目を迎えます。

2024年7月には、新しい試みとして、主に自閉スペクトラム症の方とその関係者に、安心して移動水族館に参加してもらうための社会学習用ツール「ソーシャルストーリー」を作りました。移動水族館に参加する時の手順や、守っていただきたいルールをわかりやすく説明したガイドブックになっており、水族園の公式ホームページでダウンロードすることができます。

作り始めたのは、2023年9月。どのような内容にするかを、チーム内で何度も話し合いました。私たちが伝えたいことをつめ込んだ結果、最初の案は20ページ以上の膨大な量になってしまいました。そこから、専門家や特別支援学校の先生にアドバイスをいただきながら、利用者にとって大切な項目は何か、どのような文や写真がよいかなどを見直し、10ページにまとめました。今後は、多くの方に使っていただきながら改良していきたいと思います。

(教育普及係 高濱 由美子)



読みやすいフォントえらびや、わかりやすい表現を心がけました



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

最近、擬態語(さまざまな様子を音に例えて表現した言葉)に興味があり、辞典を買って眺めています。参考にした本によると、「わくわく」という言葉は、水が勢いよく出てくる事を語源とする「湧く」から生まれた言葉だそうです。「SEA LIFE NEWS」では、これからも、たくさんの方の「わくわく」する話題をお届けしていきたいと思っています。お楽しみに!(高濱)

SEA LIFE NEWS 通巻 118

Vol.22 No.5 2024 OCTOBER 10月1日発行(次号は2024年12月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143



ミックス
紙 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C100489